

The University Times

November 2012 Vol. 24

<http://jtimes.jp/utimes>

produced by IELTS by Eiken × The Japan Times ©THE JAPAN TIMES, LTD. 2012

CONTENTS		<ul style="list-style-type: none"> ■ Career Centers: キャリアセンター探訪 一橋大学 4 ■ Learn About Industries: この業界を知りたい! 不動産業界 5 ■ Columns: IELTS Hot News / アゴス・ジャパンに聞く IELTS とは / 海外の気になる学部 6 	<ul style="list-style-type: none"> ■ News in English 英文記事を読んでみよう 7 ■ Studying Abroad in the U.S.A.: 私の米国留学 / 読んでほしいこの3冊 米国留学記 / 書籍紹介 8 ■ Study Abroad Benefits: 留学で培う3つの力 コミュニケーション力・行動力・適応力 9 	<ul style="list-style-type: none"> ■ University's Challenge: 国際交流に取り組む大学 横浜国立大学 10 ■ IELTS ライティングテストのコツ 11 ■ Look Around the World: 世界の名所を知ろう シンガポール共和国 12
<ul style="list-style-type: none"> ■ Visit a Global Company: グローバル企業訪問 丸紅株式会社 1 2 ■ Journalist's Eye: 英字新聞記者の視点 「Nexus 7」 / 「原子力規制委員会」 3 				

Visit a Global Company : グローバル企業訪問

世界の動きを読みながら 先を見据える力が武器に

Vol.14 丸紅株式会社 **Marubeni**

トレードと事業投資のシナジーで、世界を相手にしながら飛躍的な成長を遂げる丸紅。求められるのは、グローバル業務に対応するために必要な「一歩先を読む力」と、異文化を理解した上で意見を伝えられる力を持った人材だという。

1949年の設立以来、食料や化学品などの生活必需品から、金属やエネルギー、電力・インフラに至るまでさまざまな分野で事業を展開してきた総合商社・丸紅株式会社。従来の業務のメインであったトレードに加えて、近年ではそれぞれのセクションが業務領域拡大のために積極的に事業投資を行うことで、飛躍的に発展を続けている。

商社は歴史とともに変化を遂げてきた。従来からのトレード業務を淡々とこなすだけでは、時代の変化とともに存在価値は失われてしまう。これまでのさまざまな失敗や成功体験に加え、社内で培われた多様な事業ノウハウを元に新しいビジネスを作り続けてきたのである。「グループ会社も含め、全世界に3万人以上の社員がいます。そこから入ってくる生の情報も財産のひとつ。それらの情報と

取引先や社会のニーズ、そして自分のビジネスをつなぎ合わせ、新たなトレードや事業投資の機会を作っているのです」

そう話すのは、人事部の毛利幸雄さん。現在丸紅は、商品のカテゴリーごとに分けられた12の営業所に、開発建設事業部を加えた13の営業フィールドを有している。時代によって好調・不調な業種が異なるのは当然のこと。様変わりする世界の政治経済や社会情勢を踏まえ、リスクとリターンのバランスも勘案した上でどこに経営資源を投入していくかにも目を配る必要がある。

「各社員の仕事も目まぐるしく変化する世界情勢に大きく影響を受けます。だから、社員は自分の担当事業に関わる部分はもちろん、そうではないところにもアンテナを張っています。それらがどう自分の担当業務に影響する



東京・千代田区にある丸紅本社

のか、また別部門とのシナジー効果が生まれるような新たなアイデアはないか、想像力を働かせて一歩先を見据える力が求められているのです」

自分で考えて行動に移す力が大切

国内に9の事業所、海外には67カ国・地域に120カ所の事業所および現地法人を持つ丸紅では、約90%が海外からの収益。傘下にある事業会社を含めると国内に142社、海外に288社ものネットワークを持っている。海外関連のビジネスが主体となっている今、「世界で戦える人材」が求められていることはいうまでもない。「語学力が必要なのはもちろんですが、そのツールを使いこなせなければ意味がありません。世界で戦える人材というのは、異なる文化や価値観を理解し、相手が何を求めているかを感じ取ることができる人のこと。その上で、伝えたいことを伝える力が不可欠です」

その力を養うべく、丸紅が重要視しているのは海外経験だ。全ての総合職社員は入社7年以内に海外経験を積むことが義務付けられている。通常の海外駐在の他に、海外現地法人や事業会社で実務を学ぶ「ビジネス・トレイニー」制度を利用する場合もあれば、現地の語学学校へ1年通い、残り1年は実務研修を行う「語学研修生」制度などもあり、そのパターンはさまざま。早いうちから異なる環境の中に身を置き、経験を積みながら成長することが大事だと丸紅は捉えているのだ。「人間関係が重要視される商社でコミュニケーション能力は必須です。弊社の場合、海外だけではなく国内のOJTでも鍛えられるところが大きいと思います。社員は若手の頃から現場で経験を積み、お客さまとの信頼関係を築きながらビジネスを立ち上げていく力を養っているのです。社内でも若いうちから意見を求められることが多く、活発に議論が交わされるのも特長のひとつ。また、自分で考



人事部企画・採用課の採用担当課長、毛利幸雄さん

Visit a Global Company

グローバル企業訪問

えて行動する社員が多いのは、若手にも裁量のある仕事を任せるといふ社風によるところも大きいかもしれません」

入社後 3、4 年もすれば自分のやりたいことを上司に提案し、自分の事業を動かしていく社員も珍しくないという。「皆、担当事業については自分が一番よく知っているという自負があるのです。そういう意味では、OJT による効果は非常に大きいと思います」と、毛利さんは話す。

「求める人材像は定めない」と言い切るほど、個人を尊重する考えは採用活動にも反映されている。面接で注目するのは、対象は何であれ自分が興味を持ったことに対して真剣に考え、動いてきたかどうか。何かに対して主体的に取り組んできた経験を持つ人であれば、入社後もやりたいことを見つけて能動的に動くことができるはずだからだ。「就職活動に正解はありません。人によって生きてきた過程も今後やりたいことも千差万別。

就職活動の正解は、学生の皆さん、一人ひとりの中にあります。長い社会人生活を送る上でその会社は自分に合っているか、その会社でやってみたいことはあるか、周りに惑わされず自分を見つめ直すことから始めてほしいと思います」

さまざまな得意分野を持った社員が集まることで、刺激し、成長し合える環境が作られている丸紅。その一端を担う新しい風との出会いを、全社員は首を長くして待っている。

Marubeni

丸紅株式会社

国内外のネットワークを通じて、食料、繊維、資材、紙パルプ、化学品、エネルギー、金属、機械、金融、物流、情報関連、開発建設などの広範な分野において外国間取引を含む輸出入及び国内取引を行う総合商社。その他各種サービス業務、内外事業投資や資源開発などの事業活動まで多角的に展開する。国内に 9 の事業所、海外では 67 カ国・地域に 120 カ所の事業所および現地法人を展開する。2010 年度にスタートした 3 カ年の中期経営計画「SG-12」において、すべてのステークホルダーの「期待を超えるパートナー」として持続的成長を目指し順調に実績を残している。
<http://www.marubeni.co.jp/>

グローバル企業の先輩に聞く！

アイデア次第でどんなことにも トライできる環境がある

丸紅株式会社
化学品部門 機能化学品部
東京機能化学品第二課



2007 年入社。海外とのやり取りは、主にメールで行う。実務の中から、伝えるために必要なニュアンスなどを学んでいる

Q お仕事内容を教えてください。

A 化粧品や、シャンプー・ボディソープといったパーソナルケアなどの原料を、主に東南アジアから日本に輸入する仕事をしています。また、東南アジアのサプライヤーと、ヨーロッパやアメリカをつなげる仕事もしています。

Q 入社後の経歴を教えてください。

A 最初の 2 年は営業経理部で、化学品部門の予算や決算などの数字を扱う仕事をしていました。3 年目で機能化学品部へ移動し、4、

5 年目はドイツに駐在。今年で入社 6 年目です。ドイツには「ビジネストレイニー」制度を利用して駐在し、ナショナルスタッフとともに営業活動をしながら実務を学びました。

Q 新規開拓はどう行うのですか？

A ドイツ駐在時は、現地の化粧品やパーソナルケアのメーカーを見つけて営業活動をしていました。現在は当時のクライアントと継続して取引を行っているほか、展示会で開拓先を見つけたり、ヨーロッパやアメリカのナショナルスタッフや駐在員が新たな取引先を見つ

けてくれたりしていますね。基本的にはトレードが主体ですが、時にサプライヤーの買収についても視野に入れるように言われています。

Q なぜ総合商社を選んだのですか？

A 学生時代は商社が何をするとところなのか知らなかったため、OB 訪問を行いました。すると、どの業界よりも先輩方が楽しそうに仕事の話をしていて、とても興味を持ったのです。昔から海外とつながる仕事をしたいと思っていたことも、決め手のひとつになりました。高校時代は周りに帰国子女が多く、大学時代も異文化交流サークルで留学生と交換ホームステイやワークショップなどを行っていたのです。オーストラリアに 1 年間留学をしていたこともあり、英語はかなり勉強しました。

Q 丸紅を選んだ理由は？

A 雰囲気自分が合っていると感じました。皆フレンドリーで、それでいているいろんなタイプの人がいるという印象でした。入社してからもその印象は変わりませんでしたね。上司ともフラットに対話ができますし、休みの日には部長とイベントに顔を出すほど仲が良いです。業務上も、新規開拓先などに対する提案はいつでもできる環境です。話を通すと「やってみなさい」と言ってくれることが多いので、恵まれていると思います。

Q お仕事の醍醐味は何ですか？

A 自分のアイデア次第で何でもできることです。例えば、新聞で面白そうなものを見つけたら、それを「海外に持って行ったらどうか」などと考えられるところが面白いですね。始めたときは点と点でしかないものが、ひとつの線としてつながったときはとてもやりがいを感じます。

Q 印象深かった海外取引は？

A 日本の化粧品原料をドイツのメーカーに売り込んでいた時、少し興味を持ってくださ



現在は、石鹸や洗剤に使われる原料を扱う下林さん。写真は海外での市場調査で撮影

たお客さまがいらっしゃいました。後日、日本から原料メーカーの方がお見えになると聞き、どうしてもそのお客さまとアポイントを取りたかったのです。でもヨーロッパは、きちんとサンプル評価をして、具体的なビジネスになりそうな段階でようやく会うという文化。それを知らずにしつこく連絡したら、「そんなにしつこくするならいない」と言われてショックを受けました。文化の違いについても勉強になった出来事でしたね。

Q 新たにやってみたいことは？

A 所属している課には営業職が課長を含めて 4 人いるのですが、女性が私ひとりなのです。せっかく化粧品分野を扱っているのに、女性ならではのアイデアを化粧品原料で提案していけたらと思っています。

Q 学生へのアドバイスをお願いします。

A 就職活動をしていた時に「この会社に行きたい気持ちは確実にあるのに、なぜうまく伝えられないんだろう」と悩んだことがあったんです。でも必ず行きたい理由があるはずだから、それを掘り下げたいということに気づき、考え続けた結果、丸紅の面接ではうまく伝えることができました。面接ではもっともらしいことを言ってしまうがちですが、自分が納得できなければ他人には伝わりません。自分の中にある答えを探してください。

下林さんのお仕事アイテム拝見



「忘れると困るのが 3 色ボールペン。ミーティングの時に黒ペンでメモを取って、帰りの電車や出張先のホテルなどで記憶が残っているうちに青で大事な事項に線を引きます。そして、赤でやるべきことに☆をつけるのです。営業に配属されてからはずっとそうですね。海外出張時には、バスタイムのリラックスアイテムが必須。これはドイツのメーカーのもので、駐在時に買って来た商品です。とても気に入っています」

Journalist's Eye

英字新聞記者の視点

日本のニュースを英語で発信しよう！

英字新聞 The Japan Times 記者が語る
日本の「今」を世界に伝えるための心得

—— Vol. 14 by Kazuaki Nagata

日本で起こっていることを外国人に伝えるには、物事の背景を理解し、分かりやすく説明するスキルが求められる。このコーナーでは、記事をより深く理解し、自ら説明できるようになるためのコツを英字新聞 The Japan Times の記者に教えてもらう。今回は、次々と新製品が登場しているタブレット機器と、最近新たに設置された原子力規制委員会の役割について、永田一章記者に伺った。

■ iPad の半額！ Google が発売した新しいタブレット

- Google Inc. launched its latest tablet device in Japan, with the price more than 50 percent cheaper than Apple Inc.'s popular iPad.
- Google はその最新のタブレット機器を日本で発売開始した。価格はアップルの人気製品 iPad の 50 パーセント以下である。

Google が、アメリカで評判を集めているタブレット「Nexus 7」を日本でも発売することになりました。その価格が1万9,800円と、最も人気の高いアップルの9.7インチiPadの半額以下とあって、ちょっとした話題になっています。

次々登場する新型タブレット

iPadの成功後、日本でもさまざまなタブレットが発売されるようになりました。タブレットとは、タッチパネルで入力する、板状の薄型軽量PCの総称で、無線LANを使ってインターネットに接続し、ゲーム

や動画、音楽などさまざまなサービスを利用することができます。

日本では、アップルのiPadに圧倒的な人気が集まり、昨年度は市場の約60パーセントを占めています。そのほかAndroidというOSを利用したタブレットが多数出ていますが、iPadほど大きな支持を得ているものはありません。

アメリカではiPadのほか、さまざまなパソコンメーカーのタブレットが人気を競っており、インターネットショップのAmazonが独自に出しているKindle Fireといった商品もあります（日本では10月

■ 原子力規制委員会発足、原発再稼働は？

- Created to replace a nuclear regulatory system discredited by the Fukushima disaster, the new five-member Nuclear Regulation Authority is being faulted as a cosmetic change.
- 福島の大震災後信頼を失った核規制システムに代わり、5人の新しいメンバーからなる原子力規制委員会が創設されたが、表面的な変化に過ぎないと非難されている。

福島の原子力発電所で災害が起こった後、原子力発電の規制や監督の方法について、非効率的または不適切な面があるとの批判が行われました。そこで、より客観的で公正な機関を作ろうと、これまであった「原子力安全・保安院」を解体し、今年9月、新たに原子力規制委員会（Nuclear Regulation Authority = NRA）が発足したのです。

古い体質から脱却しきれない？

以前の原子力安全・保安院は、経済産業省の管轄下にありましたが、その他内閣府に原子力安全委員会があり、文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課がありと、さまざまな役割が分散されているという問題がありました。今回それ

をひとつにまとめ、環境省の外局として設けられたのが、原子力規制委員会と事務局である原子力規制庁です。

また、本来は規制する側に原子力に関する豊富な知識があるべきなのですが、実際には原子力安全・保安院の担当者も、発電所の詳細を知るには、事業者である東京電力の力を借りざるを得ないといった状況にありました。そこで、5人の専門家で構成されている原子力規制委員会では、より厳密に管理規制を行おうとしているのです。

実際には、原子力規制庁の職員の大半は、原子力安全・保安院の官僚がそのまま移るなど、旧体制とそれほど変わらないのでは、という批判があります。また、原子力規制委員会の専門家についても、



google のサービス展開が注目される

24日に3種類のKindleの発売が発表されました。Googleも基本的にはインターネット検索サイトを運営する企業ですが、Nexusというブランドでスマートフォンの開発を始め、今年6月には7インチのタブレットNexus 7を発表、日本でも9月に発売されることになったのです。

低価格の理由は？

Googleのようなインターネット企業がタブレット機器を開発するのは、検索エンジンをはじめとした自社のネットサービスをもっと活用してほしいからです。例えば、今回Googleは、Nexus 7の発売とともに、日本で「Google Play ブックス」というサービスを開始することを発表しました。これはオンライン上で日本語の電子書籍を購入できるもので、Nexus 7を使ってGoogle Play ブックスから電子書籍をダウンロードすることで、書店に行ったりネット上であちこちのサイトを検索したり

しなくても、手軽に本を手に入れることができるというわけです。

実はこういったサービスと連携させることは、Nexus 7というタブレットの価格の低さに結びついています。iPadとNexus 7では、内蔵されているカメラがひとつ少ないということと大きさを除いては、機能の面で大きな違いはありません。それを半額で売ろうというのですから、Googleによると、タブレットを販売することによる利益はほとんどないそうです。ただ、タブレットを普及させ、より多くの人にGoogle Play ブックスのようなサービスを利用してもらうことで、収益を見込んでいるのだと思います。

著作権の問題などがあってすぐに紙の本と同じ品ぞろえができるわけではないようですが、出版社などコンテンツ提供側も力を入れていることですし、Google Play ブックスのようなサービスは、これから大いに拡大する可能性があると思います。

* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nb20120926a4.html>

本当に原子力業界と利害関係がないのかという疑問の声も出ています。しかし、現在停止している原発を再稼働させるにはしっかりした安全基準を作る必要があり、その役割を担うのは原子力規制委員会です。果たして本当に古い体質が変わっているのかという問題も含め、これからの仕事ぶりに注目したいと思います。

原発は再稼働させる必要があるのか

今年の冬の電力需要については、原発を再稼働することなく乗り切ることができるといって出ています。しかしこれは、現在のような火力発電の依存度が高い状態を続けてのことです。



原子力規制委員会の田中俊一委員長

KYODO PHOTO

火力による供給を高めると膨大な燃料費が必要となり、電力会社は現在、膨大な赤字を出し続けています。国民の間では、「いつか原発は全て停止する方向で」と考えている人が多いかもしれませんが、電力会社の事情は異なります。日本の電力会社の経営は、原発利用を前提として成り立っています。このままのペースで火力の燃料費を払い続ければ、電力会社は経営破綻を避けるために、電気料金を上げざるを得なくなりそうです。

原発問題をニュースで見聞きする際には、一国民としての考えだけでなく、政府、電力会社などさまざまな立場を考慮に入れてみるといいかもしれません。

* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nn20120920a3.html>

● 今月の記者 ●

永田一章さん
KAZUAKI NAGATA

2007年ジャパンタイムズ入社。ビジネス、IT、エレクトロニクス関連を主に担当。原発問題についても定期的に取材を続けている。

Career Centers

キャリアセンター探訪

キャリアセンター探訪

大学の就活支援

強固な同窓会組織が支えるキャリア教育

●一橋大学

就職では絶大なブランド力を誇る一橋大学の学生といえども、いまやあぐらをかいていられる時代ではない。2006年にスタートした「キャリア支援室」と、同窓会との連携によるキャリア教育プログラムは、これまでになかったキャリア形成支援の形として、成果を発揮している。

就職支援にとどまらない

キャリア支援室の役割

かつては「就職貴族」と呼ばれ、就職に強い大学の代名詞だった一橋大学。時代は変わり、企業の採用形態や学生の構成比も多様化し、大学院生の数も増えている。当然、大学側も、学生のニーズに合わせた就職支援が必要となってきた。2006年4月にこれまでの就職支援室を改め、「キャリア支援室」をオープン。目先の就職活動対策にとどまらない学生のキャリア設計を目的に、学生と企業の交流をはじめとする、さまざまな支援を行っている。

キャリア支援室の主な機能としては、①会社説明会や就職ガイダンス・セミナーの実施、②就職情報・資料の提供、③インターンシップの実施、④個別相談への対応、などが挙げられる。ここには求人票や企業・業界研究用の資料、OB・OG名簿など就職活動に必要なあらゆる情報がそろっており、毎日たくさんの学生が訪れる。学生のニーズで最も多いのが、専門のアドバイザーによる個別の就職相談だ。

「年間2,200件もの相談を受けています。内容は、進路の相談からOB・OG訪問、エントリーシートの書き方、内定先の選定といった自分の希望と企業とのマッチングなど、多岐にわたります。これまであまり挫折を経験してこなかったであろう一橋大学の学生に、社会や仕事では努力しても報われないことも多いということを説くことが、私の役割でしょうか。そんな学生生活と社会のギャップを乗り越えて、内定を勝ち取るよう導いてあげることだと思っています」

そう話すのは、キャリア支援室シニアアド



東京都の国立、小平、千代田にキャンパスを持つ一橋大学

バイザーの高橋治夫さん。高橋さんは一橋大学のOBで元商社勤務。採用やビジネスの現場をよく知る高橋さんの話は、実践的なアドバイスが多いと、学生たちからも支持されている。

「面接試験に正解はありません。いくら努力していても落ちるときは落ちる。それが当たり前なのです。大切なのはその失敗を受け入れて、いかに次に生かすかということ。それができれば、おのずと内定は勝ち取れます。そして学生たちには、多くの社会人と会うことを勧めています。仕事の基本は人に会うことと言ってよいでしょう。幸い一橋大学はOB・OGとの結び付きが強く、いつでも在校生を歓迎する体制を取っています。卒業生を訪ねて話を聞き、仕事の雰囲気を感じることができれば、自分の働いている姿が見えてくるはずですよ」

拡充している留学生・大学院生へのキャリア対策

高橋さんがいま力を入れているのが、年々増えている外国人留学生に対するキャリア支援だ。日本で学ぶ留学生は総じて能力は高いが、海外とは異なる日本の就活文化に戸惑うことも少なくないのだという。

「就職活動の開始時期が決まっているのも日本ならではです。就職試験は書類も筆記も面接も全て日本人と同じ条件で行われるため、留学生たちは大変苦労しています。日本語でのグループディスカッションが苦手という声もよく聞きますね。そんな彼・彼女らの悩みを解決・共有するための取り組みとして、留学生OB・OGが自身の就活体験を語るセミナーや座談会を定期的に開催しています。学生がぶつかる壁というのはほとんどが同じポイントですから、先輩の通ってきた道や経験は必ず参考になります」

また、キャリア支援室大学院部門特任講師の三浦美樹さんも「こうした先輩たちの経験談は、研究と就職活動との両立に苦労している大学院生にとっても勇気や励みになるでしょうね」と話す。

キャリア支援室では2011年より、大学院部門を新設した。一橋大学では2003年の大学院重点化以降、大学院生の数が増え、修士課程修了後に就職を選ぶ人も多くなっ



学生から就職活動の相談を受けるキャリア支援室シニアアドバイザーの高橋治夫さん

ていることから、大学院生に特化した進路選択や就職のサポートを行おうというのが発足の狙いだ。

大学院生向けキャリア支援の一番の課題は、研究と就活の両立だ。就職活動の準備に比較的余裕のある学部生とは異なり、修士課程では1年次の夏にインターンシップが始まる。2年間という限られた時間の中で、研究の準備や課題をこなしながら、進路決定を円滑に進めることは極めて難しい。

また、ゼミに定評のある一橋大では、他大学からの大学院進学者も多い。そういった大学院生はOB・OGを探すルートに限られており、人脈づくりにも苦心しているという状況も聞こえていた。

「大学院部門が注力しているのは、修士課程を修了した先輩たちとの交流の場の提供です。ネットワークづくりはもちろんのこと、生の声を聞くことで両立のヒントを見出したり、大学院での経験が仕事に生きることを知ったりしてほしい。そうすることで、大学院生たちに自信を持って就職活動に臨んでもらおうと考えています。忙しい大学院生ですから、座談会に出席できるのはほんの一部です。そういった大学院生たちにもOB・OGの体験談を知ってもらおうと、メールマガジンの発行と『修了者キャリア・インタビュー』の冊子配布も行っています」と、三浦さん。

同窓会との連携による先駆的キャリア教育

一橋大学のキャリア支援でも特徴的なのが、同大の同窓会組織である「如水会」との連携プログラムだ。如水会の協力の下、さまざまな業界の第一線で活躍する卒業生約150名を講師として組織し、各業界のビジネスリーダーと学生との対話を中心としたゼミスタイルの双方向授業「キャリアゼミ」

や、先輩たちが自らの実践経験を語るオムニバス方式の講義「社会実践論」などを開講している。

如水会によるプログラムも、ベースにあるのは社会人と会うということだ。一橋大学のキャリア支援のポイントはこの1点に尽きる、と高橋さんは話す。

「社会人に会い、話を聞き、自分の意見を述べる。本プログラムは、コミュニケーション能力、対人対応力など、社会・仕事において必要な能力を習得することを目的に組み立てられています。大学1、2年次から、一部上場企業の社長さんたちと接することができるなど、その経験はそのまま面接の練習にもなるはずですよ。OB・OGの方から大学に来てくれる貴重な機会ですので、学生には積極的に受講してもらいたと思っています」

この他にも、約540社の企業・機関が参加する会社説明会を手がけたり、インターンシッププログラムの提供、学生組織「キャリアデザイン委員会」が行う就職セミナーの支援など、学生が自らの進路を自己設計できるよう充実を図っている。こうしたリソースに加え、同窓会との強固な連携によって、従来の大学の枠組みでは難しかった体系的かつ継続的な一橋大学のキャリア教育は完成しつつある。大学と社会との有効な連携モデルとして、今後、多くの大学の参考となることだろう。



キャリア支援室による就職セミナー

一橋大学

1875年、政治家・森有礼により商法講習所として開設。社会科学系の総合大学であり、ゼミナールを中心とする少数精鋭教育を特徴とする。建学以来、「キャブテンズ・オブ・インダストリー」の精神の下、国際的に活躍する多くの有為の人材を各界に輩出する。東京都の国立、小平、千代田にキャンパスを持つ。

Learn About Industries

この業界を知りたい!

この **業界** を知りたい!

大学生にとって最大の関心事といえば就職活動。業界研究は就職活動に必須だ。そこでこのコラムでは、各業界の専門家に話を聞き、各業界の今について教えてもらう。第1回目は「不動産業界」。不動産業界の専門家である住宅ジャーナリストの櫻井幸雄氏に話を聞いた。

少子化が与える影響は?

少子高齢化が進行する日本。2012年1月30日、厚生労働省の社会保障審議会・人口部会は、36年後に日本の総人口は1億人を割り込み、50年後には8,674万人にまで減少するという試算を発表した。これからの50年間で、日本の人口が3分の2になるのだ。

少子高齢化が日本経済に影響を与えるのは確実だろう。中でも、30歳代前後の人間をターゲットにして住宅販売で利益をあげてきた「不動産業界」がダメージを受けるのではないかと想像できる。

しかし、住宅ジャーナリストの櫻井幸雄氏は、そんな素人考えを否定する。「少子化で家が売れなくなるので、日本の不動産業界に明日はない。そんな極端なことを言う人がいますが、少子化は10年以上前から分かっていたこと。個人向けの住宅販売が鈍ることを見越して、業界はすでに対策を



打っています」

対策は会社によって差があるという。「たとえば業界最大手の三井不動産は、グループで商業施設を経営し、利益を出しています。皆さんも聞いたことがあると思いますが、三井アウトレットモール、ららぽーと、東京ディズニーランドなどを手がけています。5年ほど前には沖縄の名門リゾートホテル・はむるぶしを買収しました。大和ハウスも商業施設に強みがあります。郊外の国道沿いに、TSUTAYAやユニクロが入ったロードサイドの商業施設を見るとありますが、それらの多くを手がけているのがこの会社です。業界2位の三菱地所は、都市部にオフィスビルをたくさん所有しています。『三菱村』と呼ばれる東京・丸の内だけでも、30棟を超える大型ビルを所有しています。これらの賃料収入は莫大。しかもビルの耐用年数はおよそ60年。30棟以上あれば毎年のように建て替えがあるので、『賃貸収入→建て替え→さらなる賃貸収入増』という、ビジネスモデルができあがっています。ライオンズマンションでおなじみの大京は、管理委託を受けているマンションが100万世帯あるといわれています。委託収入は大きく、管理している世帯が新たな販売チャンネルにつながります」

このように、不動産業界各社は、住宅販売のみに頼るのではなく、自身が得意な分野で収益をあげることに成功している。少子化に対して手をこまねているわけではないのだ。人間の生活の基本となる「衣・食・住」。どれだけ社会構造が変わっても、「住」への

需要、不動産業界への需要がなくなることはない。さらに商業施設などを通じて、「衣」や「食」に対しても守備範囲を広げている。「不動産業界は、家や土地を売って終わりというイメージがあるかもしれませんが。しかし想像以上に仕事の幅が広い業界でその幅はさらに大きくなっていくと考えられます」

フィールドは国内に留まらない

海外へと進出する不動産企業も増えている。日本は人口が減っていくが、地球規模で見ると人口は増えているからだ。「海外進出を果たしている会社はたくさんあります。かつての共産圏や、インド、インドネシアなどに、住宅作りのノウハウを輸出しています。日本もそうでしたが、高度経済成長期に入ると、都市部の人口が爆発的に増える。これらの国々では都市部のマンション需要が増えるのは確実であり、中産階級向けのマンション販売のノウハウは、日本の会社が最も優れている。海外展開はこれからさらに増えていくと考えられます」

また、日本国内でも、外国人向けの住宅販売数が増加しつつあるという。

「外国人が日本の不動産を購入するというと、少し前までは投資目的がほとんどでした。しかし、最近では実需、自分が住むために日本の家を買う人が増えている。とくに日本の大学に留学し、日本企業で働く中国人の住宅購入が目立っています。中国の人口は14億人。そのうちの数%が日本に憧れて、住宅を購入するだけでも、住宅需要はむしろ足りなくなる。実際、数年前に販売された都心のマンションで、購買者の10%以上が中国人だったという物件もあるくらいです」

国や自治体もアジア資本の誘致を進めている。例えば東京都は、2020年完成予定の山手線新駅のそばに、アジアヘッドクォーター特区を設ける計画を立てている。対日投資が促進されれば、それだけ日本に住む外国人も増える可能性は高い。

「海外進出、外国人需要など、これからの不動産業界は、よりグローバルに展開していくことになるでしょう」

集約化が進んでいく不動産業界

これからの不動産業界が多チャンネル化、

グローバル化へ進んでいくことは理解できた。ほかに不動産業界を研究する上で押さえておきたいポイントは何だろうか。

「企業の集約化です。不動産業界に限った話ではないですが、大手と中小の体力の差が開いてきている。昨年、三菱地所の住宅分譲事業と藤和不動産が合併して、三菱地所レジデンスという新会社が誕生しましたが、これからはスケールメリットと合理化を求めて、合併は増えていくと考えられます」

もうひとつは、鉄道からの脱却だ。

「20世紀の不動産のビジネスモデルは、鉄道を主体に作られてきました。阪急電鉄の故小林一三氏が考案した、郊外の土地を買い占めた後で鉄道を敷き、土地の付加価値を高めていくというモデルです。日本の土地の価格は、駅に近いほど一等地で、駅から離れると価格が下がるようになっていました。今、不動産業界は『脱・鉄道』を目指しています。駅から離れたところに拠点を作って、その近辺の施設を充実させていくプロジェクトを進めている会社も増えています」

ほかにも業界にまつわるテーマとして「都心回帰」がある。

「バブルが崩壊した90年代末あたりか進んでいる現象で、郊外から都心に人が戻りつつあります。日本の人口は減っても、東京や大阪といった都市部の人口が激減する可能性は低い。むしろ人気が集中するケースも考えられます」

これらの動向を踏まえた上で、業界はどのような人材を求めているのだろうか。

「これからの主流になっていくのは、『住めればいい』という画一的な物件ではなく、ユーザーのライフスタイルに合わせた物件にシフトしていくと思います。すでに温泉、ドッグラン、スポーツジム併設のマンションなどが人を集めています。そんな物件を企画し販売するためには、やはり幅広い知識を持った人材が求められるのではないのでしょうか」

■櫻井幸雄

住宅ジャーナリスト。住宅情報誌の記者を経て独立。著書の執筆や、新聞・雑誌などで活躍するほか、テレビやラジオなどにも数多く出演。近著に『知らなきゃ損する!「21世紀マンション」の新常識』ほか。

世界基準のビジネス英語能力テスト

BULATS

The Business Language Testing Service

世界約47カ国1,172団体、
日本でもすでに350以上の企業・団体が採用詳細は www.eiken.or.jp/bulatsお問い合わせ tel 03-3266-6366
mail stepbulats@eiken.or.jp

世界と繋がるために

Are you sure your message is
getting through?

BULATS

Fast, reliable,
and global

IELTS Hot News

本当に「使える英語」を身に付けるための試験である IELTS (International English Language Testing System)。今や学生にとって海外で活躍するためのパスポートともいえる IELTS とはどのような試験なのだろうか？

IELTS とは？

IELTS は、海外留学や研修のために英語力を証明する必要のある方、またイギリス、カナダ、オーストラリアなどへの海外移住を志す人のための英語能力評価試験です。

その信頼性と公平性は世界中で認められており、イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほぼ全ての高等教育機関で認定されています。アメリカでもアイビー・リーグを構成する全大学を含む約 3,000 の高等教育機関・プログラムで、TOEFL に代わる試験として入学審査の際に

IELTS を採用しています。また、日本でも「グローバル 30」採択の全 13 大学において、留学生の入学要件として認定されています。

年間受験者数は全世界で延べ 170 万人を超え (下図)、英語能力試験のグローバルリーダーともいえる存在となっています。

日本での IELTS

日本では公益財団法人日本英語検定協会と、イギリスの国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルが IELTS を共同運営しています。試験実施運営体制を見直し、2010 年度は 1 万人を突破。2012 年度は



IELTS の受験会場



1 万 8,000 人に達する見込みで、全国 12 会場 (札幌、仙台、東京、横浜、金沢、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、福岡) で受験することができます。申し込み方法は日本英語検定協会のウェブサイト (<http://www.eiken.or.jp/ielts/>) でご確認ください。

IELTS のタイプと試験内容

IELTS には、アカデミック・モジュールとジェネラル・トレーニング・モジュールの 2 種類があります。

アカデミック・モジュールは、受験生の英語力が、英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するものです。イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドの大学や大学院では、アカデミック・モジュールでの試験結果が入学許可の判断の基準となっています。一般的に、大学や大学院において英語で学びたい方は、このアカデミック・モジュール

での結果が必要になります。

ジェネラル・トレーニング・モジュールは、一般的に英語圏で学業以外の研修を考えている方や、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドへの移住申請をされる方が受験します。上記内容は参考情報となりますので、どちらのモジュールを受験するべきかは事前に出願先にご確認ください。

IELTS の成績証明書を得るには、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの 4 つの試験を全て受験する必要があります。アカデミック・モジュールとジェネラル・トレーニング・モジュールのいずれも、この 4 つの試験で構成されていますが、リーディングとライティングについては、アカデミック・モジュールとジェネラル・トレーニング・モジュールで出題内容が異なります。

筆記テストは記述中心で、スピーキングテストは 1 対 1 の面接形式です。リスニング、リーディング、ライティングの筆記テストは同日に実施され、スピーキングテストは東京・大阪では筆記テストの翌日または同日に実施、他の会場では通常筆記テストと同日に実施されます。

海外で活躍するためのパスポート

真の国際化が問われる現在、英語を話せることがグローバルということではありませんが、それでもやはり英語を使えることは前提条件です。IELTS は「本当に使える英語」としての質を保証するものであり、質の高い実践的な英語力を身に付けた学生が海外で活躍するためのパスポートともいえるかもしれません。

アゴス・ジャパンに聞く

海外の気になる学部



by 株式会社アゴス・ジャパン
後藤道代

少人数のディスカッションが重要

最近、日本でも注目されつつあるリベラルアーツカレッジは、1636 年にアメリカで最初に設立された、後のハーバード大学となる高等教育機関に始まります。伝統と理念に基づき、少人数で質の高い教養教育を行うリベラルアーツカレッジは、1,000 ~ 2,000 人の小規模大学で、大学院を持たない学部教育を主体としています。入学時に専攻を決めず、2 年次後半に専攻を選択します。1、2 年次は人文科学・自然科学・社会科学の 3 分野からそれぞれ必須単位を取得し、学問の基礎となる思考力を養うことに重点が置かれます。日本の大学の一般教養課程に似ていますが、違いはその授業のあり方です。

例えば、日本の大学の一般教養の授業は、大教室で教授が講義を行い、与えられた課題を読み、正しく理解できたかを評価する一方向のものが多いのに対して、リベラルアーツカレッジでは、1 クラス 10 ~ 20 人の少人数制で、ディスカッションが非常に重要な学習の場となります。たった 2、3 人でも開講されるコースも珍しくありません。教授はディスカッションの進行役となり、生徒にトピッ

クや質問を投げかけて、多様なバックグラウンド、考えを持った生徒同士が意見を述べ合い、新しい視点に気付かせていきます。まさに、テレビで放映されて日本でも有名になった、マイケル・サンデル教授が繰り広げる「ハーバード白熱教室」の縮小クラスのような授業を 10 ~ 20 人で行うわけですから、発言せざるを得ない環境となります。発言するためにも、ディスカッションの題材として出されるリーディング課題をきちんと読んで準備しなければ、出席しても認められないこととなります。求められる準備とは、課題を単に読むのではなく、分析し、自分はどう考えるか主張できることなのです。その発言が評価のポイントとなります。また、他の生徒の主張に対して、質問を投げかけ、クラスで活発に議論をすることで「新たなアイデアを生み出す」ことが、教育の大切な意義とされています。

こうして授業を通して鍛えられる考える力、分析する力、抽象的な事象を具現化して言葉にする力、他者の意見を聞く力は、将来どんな分野に進むにしても基盤となる能力となります。これが、リベラルアーツカレッジの教養教育が目的としているところなのです。

海外の教育は、日本とは制度や重要とされる観点が異なります。それぞれの文化圏や国によって、社会のしくみや価値観が異なり、それが教育にも現れているのです。このコラムでは、日本ではあまり知られていない海外の学部や授業を紹介していきます。初回は、アメリカのリベラルアーツカレッジを紹介します。

ダイナミズムを生み出す多様性

アメリカの伝統的な名門リベラルアーツカレッジは、大統領をはじめ多くの著名人を輩出しています。学部レベルで少数精鋭の教養教育を受け、大学院でアイビーリーグなど世界トップレベルの最高学府を卒業するのが、アメリカ式エリート教育なのです。日本人では、新島襄 (同志社大学創立者)、津田梅子 (津田塾大学創立者)、内村鑑三 (キリスト教思想家) など、日本の教育に貢献した著名人がリベラルアーツカレッジで学んでいます。

伝統あるトップリベラルアーツカレッジである Williams College で、現在たった一人の日本人として在学中の佐久間美帆さん (2011 年秋入学) の毎月更新されている留学レポートを右記 URL から読むことができます。授業の様子や教授からのコメントなど、留学生活について奮闘の日々が詳細に語られています。

さまざまな人種やバックグラウンドを持った学生で構成されるリベラルアーツカレッジ。多様性が大学コミュニティにダイナミズムをもたらしてくれます。これからの時代は、

既成概念にとらわれず、グローバルな環境下で、創造的に問題解決に取り組める人材がますます求められるようになるでしょう。

☆アメリカトップリベラルアーツカレッジ

- | | |
|----------------------|-----------|
| ① Williams College | マサチューセッツ州 |
| ② Amherst College | マサチューセッツ州 |
| ③ Swarthmore College | ペンシルベニア州 |
| ④ Pomona College | カリフォルニア州 |
| ⑤ Middlebury College | バーモント州 |

(U.S. News & World Report 2012 Edition より)

■佐久間美帆のリベラルアーツカレッジレポート

<http://www.agos.co.jp/news/report/sakuma/>
(iPhone アプリ 10 月リリース予定)

株式会社アゴス・ジャパン

大学・大学院留学のテスト対策、出願対策の指導専門校。トップ校合格に必要な各種英語テストの攻略法および出願カウンセリング指導により、過去 3 年間で約 2,500 件以上という、圧倒的な合格実績を誇る。大学でのテスト対策講座なども行っている。

後藤 道代 (ごとう みちよ)



留学カウンセラー歴 18 年、アゴス・ジャパン学部留学担当、インディアナ大学教育大学院、言語教育学修士、ブリティッシュ・カウンシル公式資格取得カウンセラー

News in English

英文記事を読んでみよう

This month's selection from The Japan Times

Shukan Asahi offers apology to Hashimoto

Jun Hongo
STAFF WRITER

The publisher of the Shukan Asahi weekly magazine has issued a formal apology to Toru Hashimoto, admitting an article that detailed the Osaka mayor's "burakumin" outcast lineage and likened him to Adolf Hitler contained "inappropriate descriptions."

The article, published Oct. 16, also stated that Hashimoto's late father, Yukimine, was a descendant of the burakumin class of outcasts, belonged to a yakuza crime syndicate, frequently gambled and was "half-insane" from an addiction to stimulants.

"We deeply apologize for causing trouble," the publisher, Asahi Shimbun Publications Inc., said in a statement Oct. 18. The company conceded the article "contained multiple descriptions that were inappropriate" — though it did not say they were necessarily incorrect, including one that identified the "dowa" district where burakumin lived.

Identifying a community of burakumin, who were classed as outcasts in feudal times, has long been considered taboo among media outlets because of the heavy discrimination their descendants still face.

As a result, the article's content was "unpleasant (for) Hashimoto and many other people," Asahi Shimbun Publications concluded.

Noted journalist Shinichi Sano, the article's lead author, argued that investigating Hashimoto's family background was necessary to understand the personality of the

populist mayor, who as head of a new national political party is now considered a strong candidate to become a possible prime minister after the next general election.

Using often scurrilous terms, Sano also harshly criticized Hashimoto as a politician who only cares about grabbing the attention of TV audiences, and compared his alleged dictatorial style of leadership to Hitler's. Hashimoto's populism is "reminiscent of Hitler" in that it seeks to exploit the public's frustrations about the political establishment and major political parties to gain popularity, Sano argued.

But it is unclear whether the apology by Asahi Shimbun Publications was intended to cover these allegations. A spokesman at Shukan Asahi told The Japan Times that the magazine plans to publish another official apology in its next issue.

Since the article's publication, Hashimoto has refused to speak with reporters from the magazine and the Asahi Shimbun, which owns a 100 percent stake in Asahi Shimbun Publications, to protest its content.

On Oct. 19, Hashimoto said through his Twitter account that he is prepared to accept the weekly's apology, although he still doubts whether it is "sincere." At a news conference later in the day, the mayor said he will have to examine the content of the apology in full to determine the true intentions behind it.

On the descriptions of Hashimoto's father, the article, which was coauthored by two Shukan Asahi re-

porters, quoted a distant relative of the mayor whose identity was not revealed.

Hashimoto said that while he doesn't mind having his own history exposed by the media, he warned that the weekly had gone too far and its article was filled with bias based on his bloodline.

"It contains harmful opinions based on lineage, and it could even lead to ethnic cleansing," Hashimoto told reporters Oct. 18, refusing to tolerate such views because of their impact on his family and children.

The descendants of burakumin have long argued that identifying specific areas they populated would help to worsen already widespread discrimination against them. In one case, many companies that had reportedly purchased a copy of a book listing "dowa" areas subsequently refused to hire people from those communities.

Concerning his refusal to speak with Asahi Shimbun and Shukan Asahi reporters, Hashimoto accused the two publications of tolerating discrimination based on lineage. A reporter from the Asahi Shimbun said Oct. 18 that though the newspaper owns Asahi Shimbun Publications, it was not involved at any stage of the editorial process. But Hashimoto dismissed such reasoning, saying there is no justifiable basis for the parent company to at-



A copy of the Shukan Asahi magazine with a cover story about Osaka Mayor Toru Hashimoto sits on a table while he fields reporters' questions Oct. 18 at Osaka City Hall. KYODO

tempt to distance itself from the story.

Many analysts consider Hashimoto to a potentially key player in the next Lower House election since his newly founded Nippon Ishin no Kai (Japan Restoration Party) could field up to 300 candidates nationwide to take on the ruling Democratic Party of Japan and the Liberal Democratic Party.

The eloquent but at times uncompromising Hashimoto, who served as Osaka governor before being elected mayor, rapidly gained popularity through his administrative reforms of the Osaka prefectural and municipal governments, including salary cuts and bans on tattoos for public workers.

ジャパントイムズの本

最新号

The Japan Times
NEWS DIGEST

CD 1枚付き

ジャパントイムズ 編 定価1,050円(税込)

Vol. 38 2012.9

●巻頭特集

原発が止まっても
プルトニウムは増産

▼その他の収録記事

- エジプト大統領選、軍部と権力闘争
- ヤフー、グーグルから新CEO
- オスプレイ訓練飛行は地上60m など17本

(予約購読) <https://club.japantimes.co.jp/subscriptions/new/nd/>

Studying Abroad in the U.S.A.

私の米国留学

Studying Abroad in the U.S.A.

私の米国留学

アメリカ留学も IELTS の時代へ

～ IELTS はアメリカの約 3,000 の大学・プログラムで認定されています～

アメリカの大学や大学院では、これまで多くの日本人学生が学んできました。そして現在もまた、夢を抱いた学生たちが留学しています。彼らはどんな留学生活を送り、留学で何を感じたのでしょうか。このコーナーでは、留学経験者や現在留学中の学生に、留学の様子やメリット、英語学習、アメリカの魅力などについて伺います。

本コラムは以下の 2 団体の協力により連載をしております。

■ J TSAU (米国大学院学生会) <http://gakuiryugaku.net/> ■ USC ANJ (アメリカ学部卒業生ネットワーク) <http://www.uscanj.net/>



自分を信じれば道は開ける

ミシガン大学公衆衛生大学院 千賀 美祈子さん

学部生への授業や研究の日々

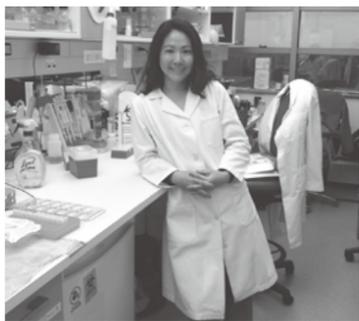
9歳の時に父の仕事の関係で海外に渡り、以来英語で教育を受けていたので、英語で学び続けることが一番良い選択だと思い留学しました。

まずノースカロライナ大学を選んだのは、当時家族が住んでいたカリブ海からのアクセスが良く、同大学のスポーツと学問のクオリティに魅力を感じたからです。学部時代は勉強とテニスに集中する毎日でした。卒業後は、キャンパスの隣にアメリカ疾病管理予防センター (CDC) があるジョージア州のエモリー大学公衆衛生大学院で修士課程を学び、授業を受けながら CDC で HIV/AIDS の研究にも取り組み、修士論文を書いていた。

現在は、ミシガン大学で週 20 時間、Introduction to Public Health (公衆衛生学概論) という教科を学部生に教え、2 学期には Molecular Techniques Laboratory (分子疫学実験技術) という教科を大学院生に教えています。それ以外の時間は、医学部の耳鼻咽喉科と感染疫学と癌センターの研究室でヒトパピローマウイルス (HPV) の研究をしています。何とかテニスの時間を確保したいのですが、それもできない忙しい日々です。

外国人学生にもチャンスは平等

ミシガン大学では国籍に関係なく、



ミシガン大学の研究室にて

優秀な生徒に対し、奨学金をはじめ、いくつかのファイナンシャルサポートがあります。外国人学生にも平等にチャンスを与えるのが、この大学のモットーであり、魅力ではないでしょうか。

アメリカの教育は、どのクラスもペースが速く、博士課程は求められる論文の数も非常に多いので相当なプレッシャーです。その中で研究をまっとうするスタミナも不可欠です。

私は、自分のこれまでの歩みを振り返り、「自分を信じて最善を尽くせば、必ず道が開ける」ことを実感しています。皆さんも、ぜひ自分を信じて、納得するまで勉強してほしいですね。

千賀 美祈子 さん プロフィール



1980 年生まれ。ノースカロライナ大学エモリー大学公衆衛生大学院を経て、ミシガン大学公衆衛生大学院疫学部 (博士課程 4 年目)。



積極的に周囲に貢献していきたい

マカレスター大学 本橋 将志さん

課外活動も充実

高校時代にカナダに留学経験がありましたが、幅広い知識を学ぶことができるリベラルアーツカレッジで、世界各国のさまざまな価値観を持った優秀な仲間と切磋琢磨したいという思いなどから、アメリカ留学を決めました。

ミネソタ州にあるマカレスター大学は留学生が多いため国際関係に強く、アナン元国連事務総長の母校でもあります。1 学年 500 人ほどの小規模な学校なので、深い友人関係を構築しやすく、教授との距離が近いところも選んだ理由のひとつです。

9 月に入学して 2 カ月。現在は、授業で経済や統計、コンピュータサイエンスなどを学んでいますが、特に経済では発言するために予習は欠かさないようにしています。放課後などには日本語のチューターのアルバイトがあり、生徒の宿題の手伝いや教授に頼まれた課題の採点などを行っています。課外活動ではコンサルティンググループやインベストメントグループに所属しており、専攻予定の経済について興味深い話を毎週聞くことができ最高です。

時間管理が重要

学校以外では、ホストファミリーとの野球観戦で初めて本場のメジャーリーグが見られたのは感動的でした。近くのミシシッピ川まで友だちと走り、紅葉



友人たちと一緒に。一番右が本橋さん

を見たりするのも気持ちいいですね。

留学生活では、とにかく宿題の量が多いので、いやでも時間管理を学ばされます。通学中や教室移動中に facebook やメールの確認、食堂での待ち時間などでは、電子版新聞を読んでいます。優先順位を常に考え、無駄を省くようにしています。

アメリカの教育環境で素晴らしいのは、自分から積極的にコミュニティーに貢献しようとする、周りが助けてくれることです。友だちがあるプロジェクトを立ち上げようとしたら、学校が費用をほぼ全額負担したのには驚きました。私も日本人の誇りを持って、積極的に周囲に貢献したいと思います。日本・中国・韓国の交流を深めるプロジェクトなどを立ち上げたいですね。

本橋 将志 さん プロフィール



1994 年生まれ。高校時代にカナダで 2 年間留学。2012 年 9 月に、マカレスター大学教養学部に入学。

JT スタッフがオススメする

読んでほしいこの 3 冊



世界で活躍するには、語学力のみならず、人間の奥深さも大切。読書を通じて、見聞を広めよう。このコラムでは毎回、ジャパネットのスタッフが大学生に向けてお薦めする本をご紹介します。

● 今月の推選人 ●

英語出版編集部 佐藤 さやか (さとう さやか)

オススメ 1 薔薇の名前

14 世紀、北イタリアのカトリック修道院を舞台に起きる怪事件を、修道士とその弟子が解き明かしていく、という一見エンターテインメント的な粗筋を軸にして、古今東西の膨大なテキストからの引用を交えた複数のストーリーが、それぞれ独立して重層的に進行していく物語。圧倒的な知識の奔流に身を委ね、言葉の限りない力を感じられる古典的一冊です。

ウンベルト・エーコ (東京創元社)



オススメ 2 悲しき熱帯

構造主義の思想家として知られるレヴィ=ストロースの、ブラジルでのフィールドワークを中心とした紀行文学。学問的なものをイメージするかもしれませんが、本論である南米民族についての分析だけではなく、旅の回想や私的自省、あるいは社会科学的考察が混ざり合いながら、平易かつ明快な文章で著されています。学問と文芸の幸福な融合が読み取れる傑作。

レヴィ=ストロース (中央公論新社)



オススメ 3 そうざい料理帖

食通で有名な池波正太郎の食日記やエッセイから、気軽に作れるそうざいのエピソードと作り方をイラスト付きでまとめた本。四季折々の「旬のもの」を、気取らず手をかけすぎずおいしくいただくという日本人らしい精神が息づいています。軽妙洒落な文章を読むだけでも十分楽しめますが、シンプルで滋味深い料理の数々は思わず作ってみたいくなること請け合い。

池波正太郎 (平凡社)



Study Abroad Benefits

留学で培う3つの力

留学で培う3つの力

Vol. 1

神戸市外国語大学 外国語学部英米学科 土佐彩乃

留学を通して何かを身に付けたり、考え方に影響を受けた人は多い。このコーナーでは「IELTS 北米奨学金」「IELTS Study UK 奨学金」の受賞者たちに、留学で培った3つの力について語ってもらう。今回は、神戸市外国語大学の土佐彩乃さんに話を伺った。

私は2011年9月から2012年5月までの8カ月間、大学の留学制度を利用して、カナダのアルバータ州にあるメディシンハット大学に留学していました。

学生のうちに、自分の価値観を広げてグローバルな視野を展開し、世界に通用する

ような英語力や専門知識を身に付けたいという思いから実現した留学ですが、本当に数々の貴重な体験をすることができました。この留学を通して培ったコミュニケーション力、行動力、適応力の3つの力についてお話ししたいと思います。

◎コミュニケーション力

留学前から他者とのコミュニケーションにはある程度自信はありましたが、現地で立ちだかっただけではやはり言葉の壁でした。他国からの留学生や先生とは異なり、カナダ人クラスメイトが話す英語はとにかく速く、慣れるまではカナダ人と会話するのが怖いという気持ちがいっつもつきまわっていました。そんな中、私に降りかかってきたのは授業最大の難関、マーケティングプロジェクトです。

私が受講していた「tourism marketing」の講義では、グループごとに観光業のmarketing planを作成し、クラス内で競い合うことになっていました。私のグループは南部アルバータ州の起源を探るadventure tourを提案し、それに関するマーケティングリサーチを行いました。

planの構成を練るために、ミーティングは毎日行われます。最初は、グループメンバーが私以外はカナダ人ということへの緊張感と、留学生だからといって足を引っ張りたくないという焦り、そして自分の英語力の乏しさから、意見をうまく発言できずに場をしのぐ状態が続きました。しかし、自分は何のために留学しているのかという疑問を自分自身に投げかけた時、このまま受け身な状態ではメンバーと信頼関係を築くこともできず、自分を成長させるメリットがないと反省し、変なプライドと恥を捨てとにかく積極的になるうという意欲が湧いてきました。

そこで次のミーティングの際、思い切って発言してみると、その意見が



marketing planのグループメンバーたち

問題の核心を突く答えとなり、プロジェクトをスムーズに進行することへと繋がったのです。最終的に私たちのmarketing planはアイデア賞を受賞し、総合的に第2位の成績を収めることができました。

それ以来、ぐっとメンバーとの距離が近くなり、授業外でも一緒に食事に行くなど交流が増え、今でも連絡を取り合う仲になっています。このグループワークで学んだのは、失敗を恐れずにぶつかっていくことです。言葉の壁があるから近付かないのでは、誰も私に気付いてはくれません。殻を破って「自分ベクトル」で相手に対して積極的に接する。このスタンスがコミュニケーション力を培う上で不可欠だと感じました。



アイデア賞を受賞した marketing plan

◎行動力

ある程度大学の講義に慣れてきた頃、「大学内に留まらず自分の視野を外の世界に広げ、現地のコミュニティーに関わっていきたい」と考えるようになりました。そこで私が積極的に参加したのが、教会でのSunday schoolボランティアと地元のオーケストラへの加入、そして基金調達パーティーでの演奏パフォーマンスです。

カナダではキリスト教徒の割合が高く、毎週日曜日に教会でミサが行われています。私がボランティア活動していた教会は、主に子ども連れ若くは家族が集まる大きな教会でした。

ミサが行われる間、子どもたちは別室でキリスト教について学んでいるのですが、私は5、6歳児クラスのアシスタントとして、授業をサポートしていました。聖書の話に基づいた絵本で読み聞かせをしたり、子どもたちが劇をしたりして聖書の勉強をするのです。私が一番驚いたのは、幼いながらに彼らはキリストの愛を実生活の中で感じ、人生のバイブルとして宗教を支えにしようとしていることです。日本にいるときには知り得なかった、実生活における宗教の位置付けという内面的一面を学ぶことができました。

次に飛び込んだのはオーケストラへ



教会でのボランティア。5、6歳の子どもたちと

の加入です。老若男女問わず音楽好きの集まりで構成されたこの団体は、教会や老人ホームで演奏会を開き、地元住民に音楽を楽しんでもらうことが目的です。そして、その集大成として参加したのが基金調達パーティーでした。カナダでは有志が集まり基金調達のためにイベントを開催する例が少なくありません。何度かオファーをいただき、コスタリカ出身の友人と総勢100人の観客の前で音楽を演奏しました。3歳の頃から続けていたバイオリンのおかげで、言葉の壁を超えて音楽に携わり、人の心を癒す魅力を改めて感じることができました。

異国の地での留学生一人対カナダ人コミュニティー。自分を受け入れてくれるのか、自分がその環境になじむことができるのかという不安がよぎりましたが、勇気をもって前進する「行動力」は、新たな出会いを与えて成功を導きだす秘訣だと思いました。

◎適応力

ここでいう適応力とは、文化背景が異なる人々が集まる環境の中で、いかに他者の主張を取り入れ、実行に移せるかという力です。この力を培うことができたのはInternational Student Weekというイベントの運営でした。

International Student Weekは毎年大学で開催されるもので、留学生が母国の文化を紹介して異文化理解を図るという趣旨で行われています。今年はファッションショー、タレントショー、習字、世界のお酒祭りという名のバブナイトが企画されました。私はこのイベントを主催する実行班として、他国の留学生と毎週ミーティングを重ね、準備を進めていきました。お互いの文化背景が異なる分、わだかまりを感じたり、思うように事が運ばなかったりと悩まされることも多々ありました。そのため、実行班メンバーで、日本人と他国の留学生との価値観の相違を議論し、理解を深めたことで、本番に向けてみんなでタスクを達成する体制をつくることができたのです。

イベント前日には出演者が理不尽な理由で出演を断ってきたり、出演者間で論争があったり、さまざまなハプニングがありました。しかし、そんな非常事

態にも実行班の落ち着いた対応の結果、有終の美を飾ることができました。そして、日本人のソーラン節のパフォーマンスは、周囲からも高い評価をいただき、この協調性の強さは世界でも誇れる日本人の国民性だと改めて感じられるイベントでした。

価値観や意見の違いは文化背景が異なる分、必ず生じてくる問題です。しかし、そこがまた異文化交流の面白いところで、相手の文化背景が異なることをマイナスに捉えるのではなく、臨機応変にお互いが納得のいく結論を導き出すことが周囲を統括するために求められるスキルだと感じました。多くの留学生がこのイベントのために時間を割いてくれたことや、留学生が一丸となってイベントを成功に導いたことに、達成感を感じると同時に、感謝の気持ちで胸が熱くなりました。このイベントは一生忘れることができない思い出です。



International Student Weekでの仲間たち

港湾都市の性格を生かし 国際化戦略を推進

横浜国立大学

日本開国の地であり、国際性豊かな風土を持つ横浜に、1949年に創立された横浜国立大学。海外の大学・研究機関との交流や留学生の送り出し・受け入れなどを積極的に行ってきたが、2008年に国際化に関する将来計画「横浜国立大学国際戦略」をまとめ、さらに本格的に国際化に取り組んでいる。同大の荒木一郎国際戦略推進室副室長・学長特任補佐に、その詳細について伺った。

英語で学ぶプログラムを発足

「横浜国立大学の大学憲章では、基本理念として『実践性』『先進性』『開放性』『国際性』を挙げています。『国際性』とは、もちろん世界に開かれた港湾都市である横浜という土地柄を意識してのことですが、本学の国際的な取り組みについては、今まであまり広く知られていなかったのではないかと懸念がありました。そこで、2008年に『横浜国立大学国際戦略』をまとめ、2009年に『国際戦略推進室』を設置し、世界により大きくアピールしていきたいと考えたのです」と、荒木一郎国際戦略推進室副室長・学長特任補佐は話す。

国際化推進のためにまず立ち上げたのは、海外の学生や大学・研究機関との交流をより盛んなものにする「国際教育シャトルベース事業」。横浜国立大学を「グローバルな教育研究拠点＝シャトルベース」とし、海外との連携によるグローバルな人間育成を目指すプロジェクトだ。

2013年10月から開講するYCCS (YOKOHAMA クリエイティブ・シティ・スタディーズ特別プログラム) は、その大きな柱となるプログラムである。英語だけで行われる学部の授業で、日本人学生と外国人学生が共に学ぶことができる。

このプログラムでは、「都市文化共創」「都市社会マネジメント」「都市創成技術」という3つの分野を選択して学ぶことで、実践的エキスパートを養成する。これと同時に日本語や異文化、ICT (情報通信技術) & メディアといった基本的なスキルを身に付け、将来幅広い職業に就くことができるよう力を磨く。当面は、4年間の学部プログラムとしては、日本国籍保有者以外の外国人学生が対象。日本人学生は副専攻としてYCCSに参加し、外国人学生と共に



国際戦略推進室の荒木一郎副室長・学長特任補佐は、国際経済法を専門とする同大教授でもあり、世界貿易機関 (WTO) に関する著書などがある

に英語で授業を受ける機会を得ることができる。

「横浜港は2009年に開港150年を迎えました。港湾都市として長く多彩な歴史を持つこの横浜で都市学を学ぶことは、あらゆる学生にとって大きなメリットになるのではないかと考えています。また、鎌倉など日本の文化・歴史遺産に触れられる場所も近く、東京からも近距離であるという点で、外国人学生にとって大いに魅力があるはずですよ」

チームワークで協働力を高める

このプログラムで特徴的なのは、英語と日本語によって生徒指導のための教材を設計し、学内で教育実習を行う点だ。日本人学生と外国人学生がひとつのチームを組んでこれを進めることで、異なる文化・価値観の中で育ってきた相手と深いレベルでのコミュニケーションを取り、自らの意見を客観的に述べる力を養うことができる。

この教材はすべて、パワーポイントやプロジェクターなどを駆使した電子教材となるため、ICTやマルチメディア技術に習熟し、将来ビジネスの現場で、効果的なプレゼンテーションを行えるようになる。YCCSを担当する国際戦略推進室の鈴木雅久国際戦略コーディネーターは「教材設計は6科目以上、実習は3科目以上と、多様な話題について学びます。企画力・語学力・集団指導力などを高めることで、学校で指導するための能力が養われるというだけでなく、企業や政府機関など、幅広い場で力を生かすことができるようになります」と説明する。将来はグローバルな企画力・コミュニケーション力を持つ政府関係者、ビジネス・マネジャーとして活躍することが期待されているそうだ。

また、YCCSでどれだけのスキルを習得したかを示すため、受講している学生たちを「国際的総合コミュニケーション能力」「統率力・運営管理能力」といった6つの項目に基づいて評価し、「グローバルアシスタント」「グローバルアソシエイト」「グローバルリーダー」として認定する。これにより学生たちは、授業を受けている間にも、自らの習熟度・上達度を実感することができるというわけだ。

YCCSについては現在すでに国内外での告知が始まり、外国人学生からの願書受付は2012年12月から開始される。書



緑豊かなキャンパスは横浜国立大学自慢のひとつ

類とビデオレターによる渡日前審査を導入することで、日本に来ることなく、受験・入学の手続きが可能になるそうだ。

世界の港湾都市が交流

国際化推進の「シャトルベース事業」の中には、港湾都市横浜ならではのプロジェクト「国際みなとまち大学リーグ (PUL) (Port-city University League) もある。事務局は横浜国立大学にあり、中国の上海交通大学、インド工科大学マドラス校、イギリスのサザンプトン大学など、いずれも「港湾都市」にあることを特徴とする11カ国14大学が加盟している、ユニークな大学リーグである。2006年に横浜で第1回国際セミナーを開催。みなと横浜の都市デザイン、中国の海上物流と造船業、海洋を巡る造船問題といったテーマの発表が、参加大学を代表する研究者らによって行われた。「インド工科大学マドラス校、ポルトガルのリスボン大学、中国の上海交通大学と、これまで世界各地で順番にセミナーを開いてきました。本学への留学経験者が現在海外の加盟大学の教員を務めているケースもあり、単に持ち回りでセミナーを開催しているというだけでなく、研究者同士で活発にコミュニケーションを取り合っています」と、荒木国際戦略推進室副室長・学長特任補佐。

他大学との交流という点では、インターネットを利用して海外の大学と双方向ハイビジョンで授業を行う、「双方向高画質遠隔教育システム」も実施されている。中国の華東師範大学、韓国のソウル市立大学、マレーシア科学大学、ケニアのナイロビ大学など9カ国14大学との接続が実現、毎週定期的に授業を行うことも可能になっているそうだ。

学生の8.5%は外国人

現在このように戦略的に国際化が進められているが、実は同大では、以前から多

くの海外留学生を受け入れ、日本人学生と交流する機会を設けてきた実績がある。

同大の学生数は学部・大学院を合わせて約1万人。そのうち海外からの留学生の数は861人。外国人学生が約8.5%と、国立大学としては相対的に大きな割合を占めている。

一方で、日本から海外への留学生の送り出しも着実に増えてきた。日本人学生が海外に留学する場合は、3カ月以上1年以内の「短期派遣留学」が盛んだ。特定の協定校への留学を選べば、留学先での授業料は免除され、派遣先で取得した単位が認定される。現在、中国、韓国、オーストラリア、アメリカなど世界33カ国に72大学との協定があるそうだ。

また、昨年「ショートステイ・ショートビジット」という3カ月未満の短期の訪問・受け入れが新たに実施され、1年間で400人以上の学生交流が実現した。「短期派遣留学」で相手先の大学に受け入れられるには一定の語学力が必要とされるが、同大では外国人と接することが多いキャンパスの環境を生かし、多くの日本人学生に、外国語に親しむ機会を提供している。

例えば、海外からの留学生向けに「短期留学国際プログラム (JOYプログラム)」を実施しているが、ここでは日本人学生が短期間一緒に英語で授業を履修することが可能になっている。日本にいながらにして、外国人学生とともに英語で学ぶ環境を少々体験することができるのだ。

また、留学生センターでは、留学生と日本人学生が自由に会話することができる「トークタイム」を毎週開催。昼食を取りながら、英語、中国語、ロシア語、イタリア語など、留学生らが話すさまざまな言語に、生で触れることができるようになっている。こうした日々の交流の積み重ねが、大きな国際プロジェクトの実現につながっているのだろう。

横浜国立大学

明治9年に発足した横浜師範学校を母体とし、1949年に創立。大港湾都市・横浜の中心部からほど近い場所に、森林に囲まれた広大なキャンパスを持つ。教育人間科学部・経済学部・経営学部・理工学部の4学部と5大学院がひとつのキャンパスに集まった、学びやすい環境が特徴。

IELTS

テストのコツ

ブリティッシュ・
カウンシル
に聞く

IELTS テストのコツ

by Alex Babulall

IELTS テストのコツをお伝えする本コラム。第3回目の今回は、ライティングテストです。

WRITING TASK 2

You should spend about 40 minutes on this task.

Write about the following topic:

A person's worth nowadays seems to be judged according to social status and material possessions. Old-fashioned values, such as honour, kindness and trust, no longer seem important.

To what extent do you agree or disagree with this opinion?

Give reasons for your answer and include any relevant examples from your own knowledge or experience.

Write at least 250 words.

IELTSの中でも、ライティングは受験者が一番難しく感じるテストです。確かに、はっきりと簡潔に書くことは、ネイティブにとっても簡単なことではありません。今回は、ライティングテストについての実際に使えるアドバイスを紹介しますので、ぜひ参考にしてください。

テストの概要

IELTSのライティングテストの制限時間は1時間です。テストには、アカデミック・モジュールとジェネラル・トレーニング・モジュールがあり、どちらかを選んで受験します。通常、大学入学のために受験する人は前者を、ビザ取得や仕事のために受験する人は後者を選択します。

いずれのライティングテストも、出題は2問です。解答に当たっては、最低文字数があり、Task 1は150ワード、Task 2は250ワードとなっています。Task 1は、アカデミック・モジュールの場合、グラフや図表、地図、進行表などのデータについて書くことになります。ジェネラル・トレーニング・モジュールの場合、招待や苦情、説明などの趣旨で短い手紙を書く問題です。

Task 2はどちらのモジュールでも同じ問題となり、何かのテーマに関する意見や特定の問題を解決するためのアイデアについての作文を求められます。

設問で問われている点すべてについて、ちゃんと答えているかどうか評価されます。文章の明確さはもちろん、ボキャブラリーや文法の正確性、多様性もポイントとなります。

一般的なアドバイス

・ 解答に「正解」「不正解」はない

アカデミック・モジュールのTask 1では、出題されているデータを客観的に描写してください。データを分析したり、自分の考えを書く必要はありません。ジェネラル・トレーニング・モジュールでも、出題されている内容に合わせたトーンで文章を書くよう心掛けてください。Task 2では出題されたテーマに対して、自分の考えを明確にして、その理由を論理的に書いてください。この点を押さえれば、「不正解」はありません。

・ 指示に従う

示された指示にはすべて従うようにしま

しょう。例えば、「書いている理由を述べなさい」「どう感じますか」「受取人に何を期待しますか」という指示があれば、全てについて解答します。部分的にしか指示を満たしていない場合は減点の対象になります。また、ワード数にも気を付ける必要があります。解答が指定のワード数に達していない場合も減点の対象です。ただし、上記のような指示をしっかりと満たした解答であれば、自然と指定のワード数に達するはずですので、あまり気にすることはないでしょう。

・ 構成を考えてから書く

解答を書く前には、数分間でアイデアを整理し、これから書くことについて大まかな構成を考えるようにしましょう。

・ 段落を分ける

段落を分けて書きましょう。各段落ではメッセージの焦点を絞り、前の段落を踏まえて展開するようにします。

・ 最後に確認する

テストの最後には、書いた文を読み返し、ミスがないかどうかを確認するための時間を取れるように調整しましょう。時制や品詞、単数形・複数形、カンマやピリオドなどの句読点などがミスしやすい箇所です。自分の間違いやすい箇所を重点的に確認するようにしましょう。

Task 1のコツ

ジェネラル・トレーニング・モジュールで最も大切なことは、手紙の趣旨をはっきりさせることと、一定のトーンで書くことです。誰が受取人なのか手紙の趣旨は何かでトーンが決まります。例えば、仲の良い友だちに泊まりにくるように招待する手紙は、会社への抗議文よりもくだけたトーンでしょうし、使う単語にも違いがあるはずですが、トーンは常に一定の調子で、段落が変わっても同じトーンで書きましょう。

アカデミック・モジュールでは、グラフや図表などを描写することになります。細かく書く前に、データの大枠を示すとよいでしょう。例えば、グラフが何かの変化や傾向を示しているのであれば、まずは細かい数字

などには触れずにその変化や傾向について書きます。そうすれば、読んでいる人、つまり採点者は、情報のイメージを頭に描くことができるのです。その後、詳細について書く際に大切なのは、ただ数字を並べるだけでなく、副詞や形容詞などを駆使してそれぞれの数字の関係性を述べ、グラフや図表が示す傾向や変化を伝えることです。段落ごとに要旨を整理し、ひとつの段落ではひとつの情報を伝えるようにしましょう。

Task 2のコツ

Task 2で大切なのは明確さです。内容についてはもちろんのこと、文章の構成や展開についても求められます。また、自分の意見をはっきりと伝える必要がありますが、自分の意見を変えたり、迎合する必要はありません。ただ、冒頭で自分の主張を示しておくといよいでしょう。必ずやらなくてはいけないことではないですが、主張がわかりやすく得点にも結びつけやすくなります。

主張を分かりやすく構成するには、段落を有効に使いましょう。ひとつの段落には、ひとつの主張だけを書きます。メッセージを変え、主張を展開したい場合には、新しい段落に進んでから書くようにしましょう。同じ段落の中で主張を展開すると、読者はポイントをつかむことが難しくなります。

Task 2は比較的長い文章を書かなくてはなりませんし、筋さえ通っていれば、基本的に何を書いてもいいので、あなたのボキャブラリーや文法力の幅を示す良い機会となります。熟語が使える場合は積極的に使い、文法や単語が正しいかどうか確信が持てないからといって、使うことを恐れないようにしましょう。自信のある簡単な言葉や言い回しばかりを使っていると、応用力がないと思われるか、丸暗記しているような悪い印象を与えてしまいます。

最後に、基本的なことを再度確認しておきます。ライティングテストで鍵となるのは明確さです。指示にしっかりと従い、ひとつの段落にひとつのメッセージを書いて論理的に展開していけば、かなり分かりやすい文章になります。これらのことを頭に入れて本番に臨んでください。健闘を祈っています。

IELTS™

IELTS.
The international
license.IELTSという名の
国際免許証

IELTS (International English Language Testing System、アイエルトツ)は、英語圏への留学や、移住を志す人の英語能力を評価するために作られたテストです。信頼性、公平性の高さからイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダを始め世界135カ国で約7,000の機関が、IELTSを受け入れ基準として認めています。2011年の全世界合計の受験者数は、170万人に達し、英語能力試験のグローバルリーダーの役割を果たしています。

日本では、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、岡山、福岡、札幌、仙台、金沢で受験することができます。

お問合せ・受験申し込みは、
公益財団法人 日本英語検定協会 IELTS 事務局まで

www.eiken.or.jp/ielts

IELTSとは…

16歳以上を対象にしたテストで、英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するアカデミック・モジュールと、英語圏で学業以外の研修を考えている方向けのジェネラル・トレーニング・モジュールの2種類があります。いずれも、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4つのテストで構成されています。IELTSは、フェアな試験内容と高い信頼性が特徴のテストです。一般的な英語検定テストと特に異なるのは、1対1の面接形式で行われるスピーキングテストがあることです。試験官が、受験者のコミュニケーション力を最大に引き出し、評価できるようにインタビューを行います。これが、他のテストと一線を画す、生きた英語を習得できるのがIELTSの強みです。



ブリティッシュ・カウンシルでは、IELTS 試験対策コースを東京・横浜で開講中!!

www.britishcouncil.or.jp

勉強法や留学した人の体験談がわかる
<https://www.facebook.com/bcofficialIELTSjp>

公益財団法人
日本英語検定協会

BRITISH
COUNCIL

公益財団法人 日本英語検定協会は、
ブリティッシュ・カウンシルと
日本でのIELTSを共同運営しています

多民族の文化が融合した エネルギッシュな都市国家

シンガポール共和国

赤道直下、マレー半島の南端に位置する島国、シンガポール。多民族の文化が融合する緑豊かなガーデンシティとして親しまれるとともに、世界のビジネス拠点としても経済発展を続けるコスモポリタン都市の魅力を紹介しよう。

シンガポール共和国(Republic of Singapore)

国土:710 km²(東京都の約3分の1)

人口:531万人

言語:英語、中国語、マレー語、タミル語

日本との時差:1時間



急成長中のアジア諸国の中でもここ数年、元気のいい国のひとつがシンガポールだ。2010年にオープンした高級総合リゾート「マリーナ・ベイ・サンズ」は、55階建て高層ビルの上に船のような形をした屋根の斬新なデザインで、日本でも一躍話題となった。また、史上初のナイトレースで市街地コースを走るF1シンガポール・グランプリも2008年から開催されている。

シンガポールは1819年、イギリスの提督スタンフォード・ラッフルズ卿が貿易拠点として開拓したのが始まり。その後、イギリスの植民地時代を経て、1965年に国家として独立した。中国系、マレー系、インド系を中心に、その他各国からの移民で構成される多民族国家である。シンガポールと聞くと、ライオンと魚が合体した「マーライオン」の姿を思い浮かべる人も多いかもしれないが、その姿さながら、さまざまな民族の文化や魅力が融合した、

実に刺激に満ちた都市なのだ。

『「マリーナ・ベイ・サンズ」が携帯電話会社のCMで登場して話題になった影響などで、最近ではまた多くの日本人観光客が訪れるようになりました』

そう話すのは、シンガポール政府観光局の吉田明子さんだ。

かつて1990年代半ばには日本から年間100万人を超える観光客が訪れていた時期もあったが、アメリカ同時多発テロなどの影響から、海外旅行者が減少。シンガポールでも低迷が続いていたが、徐々に回復し、昨年は世界中から約1,300万人がビジネスや観光などで同国を訪れた。そのうち日本人は約65万人。対前年比で実に24%も上昇した。

「シンガポールは、経済的に発展し、政治的にも安定しており、多民族の魅力にもあふれています。さまざまな意味で、今もとても活気のある国といえるのではないのでしょうか。学生などの若い方々には、それ



オブジェのようなツリーが特徴的なガーデンズ・バイ・ザ・ベイ



マーライオンとマリーナ・ベイ・サンズ。両者は、シンガポールの新旧の顔ともいえるだろう

を肌で感じてもらえると思います」

公用語が英語なので、短期の語学留学などで訪れる人も少なくない。観光であっても、海外で英語を使えるという点で、英語を勉強している大学生におすすめの旅行先のひとつだ。

多民族の文化に触れる

「シンガポールにはさまざまな側面があるので、人それぞれに好きな過ごし方ができるのも魅力です」と吉田さんが話すように、シンガポールには、食や自然、伝統、ショッピング、アクティビティまで、さまざまな楽しみ方がある。

その中でも、最新のスポットや楽しみ方をいくつか挙げてみよう。

まずは、今年6月に「マリーナ・ベイ・サンズ」の隣に誕生したばかりの「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」だ。この施設は、ガーデンシティとも称されるシンガポールが新たに生み出した広大な植物園で、巨大なガラスドームの中に春の花園から寒冷な高山までが再現され、さまざまな植物の魅力に触れることができる。中でも目を引くのが、高さ数十メートルもある人口の木、スーパーツリー。その独特な景観は実に個性的だ。

このほか、シンガポール動物園やナイトサファリ、ユニバーサルスタジオ・シンガポールなど、学生が観光で訪れて楽しく過ごすのにおすすめのスポットが豊富だ。

そして忘れてはならないのが食。「チキンライスやチリクラブといった定番のローカルフードはもちろんですが、屋台でも安くおいしい食事を楽しむことができます。それこそ中華料理から、マレー料理、インド料理、さらには和食やフレンチ

まで、ありとあらゆる食文化に触れられるといってもいいでしょう」

お腹を満たしたら、街歩きを楽しんでみるのもいい。

「シンガポールの中心地には、古くラッフルズ卿の植民地時代にさかのぼるチャイナタウンや、アラブ・ストリート、リトル・インドアといった、それぞれの民族が暮らしてきた影響を色濃く残す街があり、それぞれの文化を反映したお店などがあります。こうした民族の文化を肌で感じられるエリアを散策するのも、シンガポールを楽しむ方法のひとつです」

この他、今年9月に誕生したアジアの新しいアート拠点「ギルマン・バラックス」をはじめ、来年には「リバーサファリ」という世界の川をテーマにした動物園もオープンするという。今後も注目を集めそうだ。



活気あふれるチャイナタウン

シンガポール政府観光局・吉田明子さんのオススメ

シンガポールには、プラナカン文化が今も息づいています。プラナカンとは、かつてマレー半島に移住してきた中国系男性とマレー系女性が結婚し、その間に生まれた子孫のことで、彼らはイギリス、タイ、インドなど多様な文化を融合・吸収しながら独自の文化を築きあげました。その料理や、伝統衣装などに触れてみるのもおすすめです。プラナカン文化は「プラナカン博物館」で詳しく知ることができ、博物館の近くなどにはプラナカン料理のお店もあります。シンガポールで日本ではあまりなじみのない文化に触れてみるのはいかがでしょうか。



プラナカン料理は、「ニョニヤ料理」ともいわれ、ハーブやココナッツミルク、木の实をベースに、湯葉や椎茸、筍、味噌などを多用するのが特徴。